

「データ科学入門1」正誤表

1刷の正誤表 (2022年8月23日)

頁	場所	誤	正
p. 10	図 2.1 上部右	f の定義域 集合 B	f の値域 集合 B
p. 16	9 行目	これらの理論と技術の発達が,	これらの理論と技術の発達が,
p. 23	9 行目	ということが良く行われる	ということがよく行われる
p. 29	コラム	このような計算が良く行われる理由	このような計算がよく行われる理由
p. 33	6 行目	円グラフは扇型の面積	円グラフは扇形の面積
p. 46	9 行目	一方 B 月の分散 377.34 は	一方 B 月の分散は 377.34
p. 50	6 行目	把握するために良く用いられる	把握するためによく用いられる
p. 58	図 4.34 行ラベル	a_1, a_1, \dots, a_l	a_1, a_2, \dots, a_l
p. 64	15 行目	尋ねることが良く行われる	尋ねることがよく行われる
p. 71	4 行目	良く行われる	よく行われる
p. 83	15 行目	第 2 項を良く見ると	第 2 項をよく見ると
p. 94	19 行目	λ を最大にする	尤度を最大にする
p. 114	式 (7.33) 左辺	$10.968 - 1.960 \times \sqrt{0.826/100}$	$10.968 + 1.960 \times \sqrt{0.826/100}$
p. 115	12 行目	サンプルサイズが必要があることがわかる	サンプルサイズが必要であることがわかる
p. 127	例 A.2.1 2 行目	出る目を X とする	出る目を x とする
p. 128	2 行目	確率変数 $p_x(\cdot)$ を用いて	確率関数 $p_x(\cdot)$ を用いて
p. 130	表 A.3 タイトル	確率変数 X	確率変数 x
p. 132	3 行目	$X = 176. \dots$	$x = 176. \dots$
p. 139	式 (A.35)	$p_X(x; n, \omega)$	$p_x(x; n, \omega)$
p. 140	式 (A.36)	$E_x[x] = n$	$E_x[x] = n\omega$
p. 141	定義 A.4.4	2 つの実数 a, b を考える.,	2 つの実数 a, b を考える.
p. 144	定義 A.4.6	$\begin{cases} \lambda \exp\{-\lambda x\} & (x \leq 0 \text{ のとき}) \\ 0 & (x < 0 \text{ のとき}) \end{cases}$	$\begin{cases} \lambda \exp\{-\lambda x\} & (x > 0 \text{ のとき}) \\ 0 & (x \leq 0 \text{ のとき}) \end{cases}$
p. 147	4 行目 ベータ分布	$\beta(1, 1)$	$B(1, 1)$
p. 147	9 行目 ベータ分布	$\beta(\alpha, \beta)$	$B(\alpha, \beta)$
p. 147	定義 A.4.8	$\Gamma(y) := \int_0^\infty t^{y-1} e^{-t} dt$	$\Gamma(y) := \int_0^\infty t^{y-1} e^{-t} dt$
p. 158	(A. 75)	X_1	x_1
p. 165	(A. 102)	$E[x_n]$	$E[x_k]$